

宝塚市地域福祉計画素案「140人委員会第6地区報告書」(抜粋)

「安心してらせるまちづくり」「住んでいて良かったというまちづくり」「文化性豊かなまちづくり」「心豊かなまちづくり」

高齢者のいきがいづくりの推進		<p>趣味やいきがいをしている高齢者が少なく、閉じこもりがちである。</p> <p>中山台ではエコマネー実験に参加しているがうまく流通していない。高齢者と若い人が助ける、助けられるという一方的な関係ではなくお互いに助け合える関係づくりを推進する。</p> <p>集いの場への男性の参加が少ない。一方的な通知だけでなく、近隣の人に声をかける必要がある。</p> <p>まちの良いところ探し、人材発掘を試みてはどうか。高齢者の活躍の場が必要である。</p> <p>趣味の指導者の育成が必要である。</p>
健康づくりの推進		<p>高齢者が健康で生涯を過ごせるように、太極拳やラジオ体操の簡易版のような、誰でもできる簡単な健康体操を普及、定着させる必要がある。</p> <p>老人クラブなど場を健康づくりの場として活用する。</p> <p>若いときから健康に留意する。</p>
移動手段の確保	現状	<p>坂道が多く、買物が大変である。</p> <p>6地区は坂の多い地形であり、足の便が悪く、皆なかなか外出しない。この問題があらゆる活動のネックになっている。</p>
	制度の充実	<p>福祉制度でも外出が困難な方への対応が遅れている。</p> <p>バス料金助成をしているが、タクシー料金助成のほうが実状に合っているのではないかと。</p> <p>外出が困難な方への対応は、市内の山手居住人口4～5万人(市内1/5)に関するものであり、市も真剣に取り組むべき課題である。</p>
	福祉バス運行の実現	<p>阪急バスが市の補助を得て、仁川高丸、売布でスタートしたが、一部の地域だけでなく全市的に考えるべき課題であり、6地区からも低額な運賃の福祉バスの運行を望む。</p> <p>公共の循環バス(コミュニティバス)の実現に向けての提言は行っているがなかなか実現されない。</p> <p>病院、公共機関を循環するバスが必要である。</p> <p>伊丹市バスを導入する方策の検討を望む。</p> <p>バス停の雨よけ、日よけの屋根を設置する必要がある。</p> <p>山を横断する交通手段が必要である。</p> <p>宝塚温泉の駐車場は少ない。マイカーがなくてもそういう施設へいけるよう循環バスを望む。</p>
地域での交流の推進	外出介助ボランティア	<p>中山で外出手段が問題となってきた。外出介助に子どもたちを巻き込むことができるとよいのではないかと。</p>
	高齢化への不安	<p>高齢化すると、近所つきあいが希薄になりがちでマンションでの生活に不安が出てくる。対応策を考えなくてはならない。</p>
	地域活動の活性化	<p>現在行われている福祉活動への積極的な参加、活性化をはかる。</p>
	情報交換の促進	<p>地域活動において、情報交換・連携がうまくいけば活動が広がるのではないかと。</p>
	交流の場づくり	<p>民家のアットホームな雰囲気を活かした住民のふれあいの場ができればよいのではないかと。</p> <p>地域で宅老グループホームをつくとすれば、どのような助成が受けられるのか。売布の家の立ち上がり経緯はどうだったのか。</p> <p>集える拠点が必要である(入浴施設があれば気軽に集えるのではないかと)</p> <p>男性の一人暮らしは、趣味もなく、料理、入浴も面倒くさがるという方が多い。入浴設備付の拠点は、入浴でき、交流もできるので有効なのではないかと。</p> <p>既存施設を有効利用する。立地環境、利便性、管理・運営、営繕・補修などについて点検が必要である。</p> <p>学校の空教室・運動場を開放し、集いの場として利用を促進する。</p>
	世代間交流の推進	<p>高齢者と若者がお互いに助け合える関係づくりをすすめる。</p> <p>核家族化が進み、子どもと高齢者の接点がなくなり、世代間交流が必要とされている。命の尊厳、敬老の理念をいかにつくり出すかが重要課題である。</p> <p>世代間交流が必要である。松ガ丘・山本台ではもちつきなどの行事を通して世代間交流をはかっている。</p> <p>五月台中学にはボランティア委員会があり、愛のたより、地域活動への参加などを通じて高齢者と交流している。</p>
子どもの社会参加の推進	<p>子どものボランティア活動への参加を推進する。</p> <p>子どもは、一斉清掃などのボランティアをしたくても、クラブ活動などで出られないときが多い。地域でどうすれば参加ができるか協議してもよいのではないかと。</p>	
地域でのつながり見守りの推進	<p>退職して、栄光園でボランティア活動をしている。これまで地域は夜、寝に帰ってくるころだった。ボランティア活動をはじめ、地域でのつながり、語らいの大切さに気づいた。</p> <p>寂しい高齢者が増えている。アトム110番の高齢者版のようなものがあればよいのではないかと。</p> <p>基本は声かけである</p>	
福祉への理解を広める	福祉観	<p>世話にならないことが美学であるという考え方をもちの方が多い。</p>
	ボランティア観	<p>ボランティア=介護のイメージだったが、切手収集もボランティアになると聞いて驚いた。ボランティアの垣根を低くするような啓発講座を考えてもよいのではないかと。</p> <p>話し相手のように気づかずにボランティアしている事もある。</p> <p>今ある活動の掘り起こし、もっと有効に役立てる方法を検討する。</p>
ハード面の充実を充実させる	病院建設	<p>花屋敷地区から市立病院までは遠い。市東部(川西市側)に公立病院を建設してほしい。</p>
	入浴施設	<p>入浴事故は年間1万人と交通事故より多い。入浴施設の設定を希望する。</p>
障害者との共生	障害者への正しい理解	<p>障害を持つ子どもとのかかわり方がわからず、その子の親にたずねたところ、他の子と変わりなく普通に関わればよいとわかった。</p> <p>障害を見ないふりが礼儀という風潮がある。</p> <p>以前は障害者を特別に配慮してつきあわなければいけないように考えていたが、接してみると普通と変わらない。まず接することが重要である。</p>
	地域での受け入れ	<p>地域での受け入れ態勢と、そこに飛び込む家族の勇気が必要である。(隠そうとする人がいるのも事実)</p>
児童福祉		<p>子育ては孤独の作業のため、地域でサポートが必要である。</p> <p>子育ては卒業してしまうと関心が薄くなる分野である。</p> <p>子育てのネットワークがない。</p> <p>講演会で託児サービスが必要である。</p> <p>就学前の子どもを対象に児童室が必要である。</p>
教育	校区割りの見直し	<p>学校の統廃合を含めた行政の校区割りの見直しが必要である。</p>
	学校	<p>学校の先生の教育の場が必要である。</p>
	地域と学校とのつながり	<p>学校は閉鎖的になるのではなく、地域を巻き込むべきである。(PTCA)</p> <p>教育委員会、学校、コミュニティがつながっていない。</p> <p>教員と協議する場がない。校長、教頭との協議の場はあるが、そこでの話が教員に伝わっていないのではないかと。</p> <p>週休2日制になり、子どもたちの地域での受け入れが必要となる。中山五月台中学では地域の方を講師に招き、生徒と地域の交流を深めた。</p>
環境		<p>公園・道路における犬の糞・ゴミの被害に困っている。住民の理解と協力が必要である。</p> <p>道路に根が張り出して非常に歩きにくい。</p> <p>長尾山トンネル道路の開通による交通量の増加とともに車の騒音、排ガスが増加した。公害規制が必要である。</p> <p>迷惑駐車対策の強化をはかる。</p> <p>山手台地区の不法投棄の取り締まりが必要である。</p> <p>自治会の積極的な協力、自治会員の自主的な活動参加が必要である。</p> <p>坂道が多く、高齢者は公道まで粗大ゴミを搬出できない。</p>